

## 中医体質九分類による黒部市住民の未病関連基礎調査

○許 鳳浩<sup>1)</sup>、平田千秋<sup>2)</sup>、若林正恵<sup>2)</sup>、金谷重彦<sup>3)</sup>、  
上馬場和夫<sup>4)</sup>、川端克司<sup>5)</sup>、鈴木信孝<sup>1)</sup>

1) 金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 臨床研究開発補完代替医療学講座 2) 黒部市健康増進課  
3) 奈良先端科学技術大学院大学 4) 帝京平成大学 5) NPO 法人代替医療科学研究センター

### 【目的】

健康と未病の研究には様々な要素が関わっているが、水資源の観点から比較を試みたものは少ない。今回、我々は行政と合同で、地域資源である黒部の水（飲用水、温泉水）の地域住民の健康への影響、健康増進に対する寄与度などを検証し、地域資源に基づいた未病対策の研究・開発を行うことを主目的に基礎調査を実施した。

### 【対象と方法】

黒部市在住の20歳以上の住民330名を対象として、中医体質九分類の体質調査票CCMQ-J ver.2.0を用いて調査した（試験群）。また、前者と同様な生活環境とみなされる北陸地域の黒部市以外に在住の20歳以上の者100名（対照群）を対照群として調査した。調査は日常的に黒部市の伏流水を飲用している者とそうでないものとの比較を主目的とし、平成28年10月～平成29年3月までの期間中計3回行った。

### 【結果と考察】

体質と飲用水との関連性については、28年度の3回の調査で、試験群と対照群の体質の分布割合を比

較したところ、試験群は対照群よりも平和質の割合が高く、未病の傾向にある体質の者（平和質以外の体質の合計に相当）の割合は低いことがわかった。この結果は、黒部市に在住し、日常的に飲用水を飲用している者は、黒部市以外の水環境にいる者よりも、体質判定上、健康な者が多いということを示唆していると推定された。さらに、未病体質のうち、各体質別に両群の比較を行った結果、陰虚質、湿熱質および気鬱質では、黒部市民の割合が比較的になかったのに対し、痰湿質、特稟質は黒部市民に割合が比較的多かった。今回の結果を水資源の要素のみに帰結できるか否かについては未だ検討の余地は多いが、少なくとも地域による体質の差と水資源の関係を探る基礎調査結果を得ることはできた。

### 【結論】

飲用水という生活環境の違いによって中医体質学上の未病体質に違いがあるのかを検討したところ、黒部市民の健康度（平和質の割合）は他者に比べより高かった。また、未病体質では、陰虚質、湿熱質、気鬱質は、黒部市の方が割合が低く、痰湿質と特稟質は黒部市の方が割合が高かった。今後、さらに検討を重ねていく予定である。